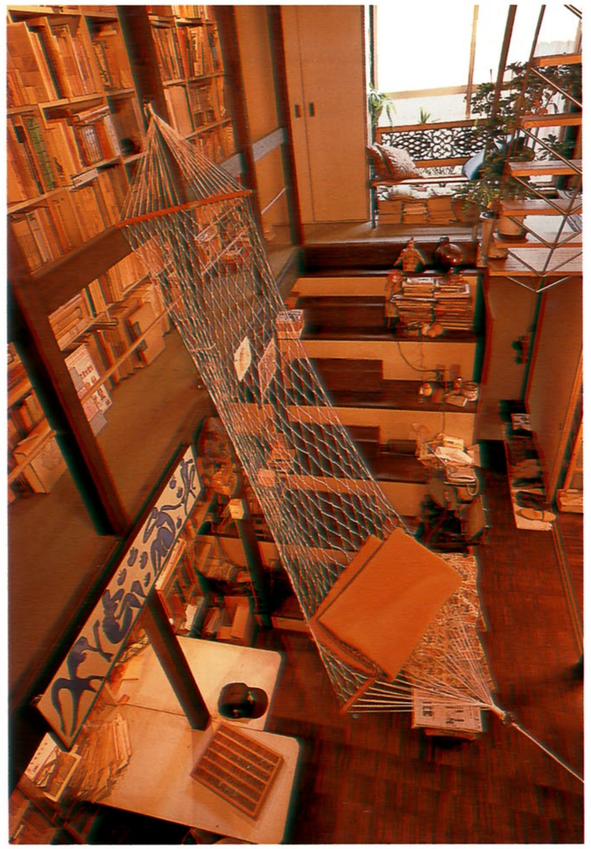

本棚脇の階段を座ってくつろげるスペースに

床から天井まで、2層分・3方向に書棚。途中にはキャット・ウォーク（通路）が巡る。本好きの人間なら、本棚の本はその場でページを開いてみたいものだが、手に取ったら階段に腰掛けて読む。階段の蹴上げは通常の2段分の高さがあるので、座り心地がいい。また、蹴上げが背もたれにもなっている。

撮影／ニューハウス出版(株)

踊り場の床面を書斎机として利用

階段の踊り場が延びて、テーブルになっている。施主は編集者。資料を広げるのに長いテーブルが欲しかった。テーブルは北側に面し、小さな窓がついている。ここから見る外部の景色が、仕事の疲れを癒してくれる。ただ、階段から下りてきた時、突如テーブルになる気分は？

©スタジオ・ムライ

玄関上のスペースを「吹き抜け書斎」に

壁一面に本棚。手前のカウンターは床より38㎝ほどの高さにある。座卓でもあり、腰掛けでもある。部屋だけでなく、家具までも機能の呪縛から解放している。奥の一段上がったところが書斎。真下は玄関である。吹き抜け空間の積極的かつ有効な利用。吹き抜けのままにし、上部に小窓を設けることで狭さをゆとりに変えている。

ゆとりの空間を創り出すヒント

独立した部屋がなくても、工夫ひとつで、ゆったりくつろげる

photo_Kumagai Taira　text_Ruisu kan

建築家の越賀さんの事務所の名前には〝建築〟の文字が入っていない。「それは、建築に限らず設計全般で仕事をしたいからです」と言う。「ものを造る実感を大切にして、手作り的な設計をめざしています。規模の大小、新築・改築に関係なく、また建築に関係ない商品開発にも取り組み、できるだけ既成の垣根を取り払って仕事をしたいと思っています」

建築を、こんなフレキシブルな思考で捉える越賀さんの設計する住宅は、〝既成の垣根〟から見ると、一味どころか、二味も三味も違う。

吹き抜けに面した全面ガラス張りの南側に、堂々と階段がある。階段や廊下などは、住人の移動の時にだけ有用となるスペースだし、通常は家の隅や壁際に収まっている。そのいわば〝脇役〟を〝主役〟に抜擢することで、脇役の新しい可能性を見いだすばかりか、芝居(家)全体に覚醒を与えている。

「住宅は、快楽的で、刺激に充ちていなければなりません」と、越賀さんは果敢にも言う。

階段といえば、越賀さんには〝ゴロゴロデッキ〟なる画期的な〝発明〟がある。実に言い得て妙なのだが、やはり階段を陽光が降り注ぐ南面に置き、幅を少し広めに取る。その日溜まりの中、家族はそれぞれ好きな段にゴロ寝したり、自由に過ごす。また、階段は時に舞台になり、時に観客席になる。

さて、本題である。「ゆとりの空間を創り出すヒント」は、まず発想の転換であろう。居間や食堂は南側に、水回りは北側になければならないという固定観念から脱皮することだ。

それは、部屋の機能の呪縛からの解放ということである。くつろぎは何も居間だけが与えてくれるものではない。食堂でくつろいでもいいのだし、浴室だって充分にくつろぎの場になる。

また、空間を、とにかく最大限に有効利用することだ。

ゆとりはワンルームの中にある

デッドスペースはつくらない。階段や廊下は、一応は用をなしているから必ずしもデッドスペースとはいえないが、限られた用途しかないスペースを〝全天候型〟にすることで、そのスペースが蘇生するし、そこにゆとりが生まれる。

「ゴロゴロデッキ」までしないにしても、階段の踊り場を広めにし、そこにテーブルを置いてミニ書斎にしてもいいし、ミニ・ギャラリーにするのもいい。廊下を単なる通路にしないために片側を本棚にしたり、絵を飾ったり……と、ここまでは誰でも考えるが、そこに椅子を置けるスペースを設けることで、あるいは小窓を開けることで、ゆとりやくつろぎの深さが増す。

「私の手がけるのはほとんど都市型住居で、予算も敷地も限られています。庭にゆとりの空間もないので、内部に豊かさを持っていないと耐えられません」とも越賀さんは言う。

内部の豊かさとは、ゆとりやくつろぎに他ならない。そして、今まで述べてきた工夫の数々は、〝ワンルーム〟の中に、それこそ〝ワンポイント〟で置くからこそ生きるのだということを忘れてはならないだろう。

ワンルームは、各部屋を機能の呪縛から解き放つ。しかし、いくらスペースの有効利用といっても、隙間なく〝ゆとりの部屋〟〝くつろぎの場〟を求めては、それぞれに機能を与えた〝個室群住居〟と変わらなくなる。ロフトは吹き抜けの一部に設けてこそロフトなのだし、吹き抜けも生きてくるのである。

ワンルームの中のどこかのスペースを、自分の目的に合わせて自由に選べるのが、ゆとりの空間である。「そこで自分なりの付け加えができるようになればいいですね」と、越賀さん。

ゆとりの空間の源泉は、小さな家にこそ豊富に流れている。

●越賀克郎　1948年京都府生まれ。71年明治大学工学部建築学科卒業。同年名取建築事務所、73～76年コム設計在籍。78年越賀設計工房設立。89年設計コアに改称。「設計と施工の垣根も取り払い、施主も巻き込み、ものを造る実感を共有していきたいと思っています」
☎03・3377・8800